

三島中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基礎学力の定着を図り、個に応じた指導の推進
- ②主体的に学習に取り組む習慣をつけるための家庭学習の確立

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 大塚みどり	委員
	校長 寺西 昭人 教頭 藤田 勝久 教務 畠中 剛喜
	1学年主任 森下 由美
	2学年主任・国語科主任 大塚みどり 3学年主任 原田 尚子 数学科主任 宮田 英和

校長

寺西 昭人

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各教科で基礎・基本となるスキルがある程度身につけている。 ○タブレットを使い、調べたり、まとめたりすることができる。 ●各教科で身につけたいスキルを使った応用ができない。	①基礎的・基本的な知識・技能を習得することができる。 ②プリントやワーク等の基本的な問題を確実に解くことができる。	①ステップアップテストで明らかになった課題を計画的に授業に取り入れる。 ②プリントを丁寧に仕上げ、各教科の小テストの正答率を70%以上にする。 ③つまづいている生徒に対しては、個別指導をしたり、スタディサブリを使って苦手なところを復習したりする等の機会を設ける。 ④学習のゴールを提示し、どのような点を評価していくのかを考える。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○方法や手順が示されている学習に、集中して取り組み、課題解決のためのグループ活動に取り組むことができる。 ○ICTを使い、自分の考えを表現することができる。 ●自分の考えを相手にわかりやすく伝えることが十分でない。 ●相手に伝えることに苦手意識をもっている生徒が多い。	①自分の考えを伝えることの大切さを理解するとともに、なぜそう考えたのか根拠や理由を明らかにして、自分の考えをわかりやすく表現することができる。 ②自分の考えだけにとどまらず、仲間とともに共有することができる。	①タブレット等を活用し、生徒自身の考えを表現できる機会を増やす。 ②定期テストに思考力や表現力を問う問題を出題する。 ③授業力向上のための研修や公開授業を実施する。(「まなびウイーク」:2回以上、研修会:2回以上) ④ペア学習やグループ学習を通して他者と協働して解決することを学ぶ。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○落ち着いた態度で話を聞いたり、与えられた課題に一生懸命取り組んだりすることができる。 ○学習の準備や板書をノートに写す等、基本的な学習態度がほぼ定着しており、与えられた課題に真面目に取り組むことができる。 ●学習に意欲的に取り組むのに時間がかかり、家庭学習のやり方や習慣が十分でない生徒が見られる。 ●自分から進んで質問する等、主体的に学習に取り組むことのできない生徒が見られる。	①テスト前には「生活記録」をもとに「学習計画表」を作成し、計画的に勉強することができる。 ②学習内容を家庭学習で、毎日復習することができる。 ③各教科の学習内容で自分の苦手なところや理解できていないところを粘り強く身につけようとしている。	①学習課題を確認・実行させる。 ②学習アプリの活用や「GoGoタイム」の実施を通して、意欲を高める。 ③スタディサブリの使用頻度を定期的に確認し、積極的な活用につなげていく。			

令和5年度 学力向上ロードマップ

